

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2015年2月21日）

岩手県・野田村に向けて弘前を出発しました。参加者は、市民参加者15名、学生5名、学生事務局1名、教員1名の計22名でした。今回は定期便として、野田村での交流茶話会・オカリナ・ギター演奏会と小学生/中学生対象の学習支援ボランティアを行いました。

出発直後、学生1名が体調不良となり、救急車に引き継がせる事態となりました。その際、運営上止む無く、市民の方につき添いを任せることとなりました。結果として、更に欠員者が2名となり、合計4名欠席することとなりました。このトラブルに対する詳細は、地域社会研究科の平井太郎先生が把握しているはずです。

花輪サービスエリアを出発した後、自己紹介を行いました。学生・市民それぞれ初参加者が数名いらっしゃいました。新たに関心を持ってもらえる機会となることを期待する一方、学生事務局が自分一人なため、運営の面に心配がありました。しかし、茶話会に手慣れた市民の方々も参加してくれていたため、お互いに指示を出し合って準備・片付けを速やかに行うよう頑張ってもらいました。改めて熟練した市民の方のご協力で活動が支えられていることを感じました。



道の駅「おりつめ」での記念撮影

交流茶話会では、オカリナ・ギターの演奏会を普段の茶話会に合わせて行いました。奏者の小林さんや和泉さんにお話を伺ったところ、20曲程も用意し、同じ曲でも歌詞を変えたりして野田村の方々とともに演奏会を楽しんだとのことでした。

交流茶話会は午前中に中学仮設の集会所、午後に南浜集会所で移動して行いました。中学

仮設では、戸別の声掛けも行ってくださったようで、空き家が増えていることが強く感じられたそうです。しかし、集まってくれた方は10人ほどもいたそうで、嬉しい限りでした。それぞれの場所で、バレンタインデーに因んだチョコのプレゼントを用意していましたが、中学仮設では7個でしたので、他になくなってしまったようです。

小学生向け児童クラブ学習支援ボランティアでは、総勢8名の子どもたちとドッジボールやドミノ倒しなどをしました。ドッジボールでは、子どもたちは思い切り身体を動かし、笑い声を上げて、学生ボランティアとの遊びの時間を楽しんでいました。また、積み木でからくり装置を作ることに挑戦し、一つ一つ試行錯誤を繰り返す子どもたちもいました。中学生向けの学習支援ボランティアにも子どもたちが来て、学生ボランティアとの交流を楽しんでいました。

総合センターの活動では、中学生1人、小学生10数名と交流することが出来ました。元気いっぱいの子どもの様子に合わせて、体育館に移り、広い場所で卓球やサッカーを楽しみました。児童クラブ室でもドッチボールをしたり、「お祭りごっこ」などオリジナリティ溢れる遊びも見られ、彼らのこどもらしい活発さと自由な発想が見られて私たちも笑顔いっぱいに遊びました。村外の市民・大学生と垣根なく遊べる子どもたちの様子が頼もしく、また輝かしく思えました。

この日のために入念な準備を重ねて下さったオカリナ奏者の3名や指示を出し合ってリーダーシップをとっていただいた市民ボランティアの方には心より感謝申し上げます。またそれ以外の市民・学生ボランティア参加者のご協力、ドライバーさんとバスガイドさんのご支援により、滞りなく活動を進めることができました。併せて、感謝申し上げます。

(著責:学制事務局 2年 宮川京大)